

令和6年度

八王子市立清水小学校 学校経営報告

【 1 令和6年度の取組目標と自己評価 】

(1) 学力の向上（重点目標）

① 地域学習の充実

⇒・創立50周年であることをよい機会にとらえ、生活科・総合的な学習の時間を中心に、各学年、体験的な活動を積極的に取り入れ、地域素材を活用した。地域を題材に体験的な学習を導入し、子供たちの興味関心を高めて、探究学習になるように取り組んできた。

（例）3年生：かいこ 4年生：川口川 5年：稲作 6年：地域

- ・地域を題材にすることで、課題を自分事としてとらえ、自分なりの考えをもち、話し合い活動をする中で、自分の考えを深めることができた。
- ・校内研究においても生活科・総合的な学習の時間を中心にして授業研究を3回行った。それぞれに講師をお呼びして、専門的な見地からの指導を受けることができ、生活科・総合的な学習の時間で育てられる資質・能力について教師が理解を深めることができた。探究学習である単元を一つは作ることができたが、今後は年間計画を見直して、育てたい資質・能力にそった計画を作っていく必要がある。

② 基礎学力の定着

- ・九九の100%習得学習の進捗状況を確認し、各学年が継続して取り組めるようにすることで、2回目の確認テストでは習得率が上がり、効果が出てきている。ただし、50%以下の児童も各学年にいて継続して個別対応の指導が必要である。今後も校長室での指導を行っていく。
- ・5年生の算数においては3学級5展開の授業を年間を通して行ってきた。八王子市の学力調査委においても、平均得点も上がり、成果が出ている。来年度は5・6年生において3学級5展開を実施し、一層の基礎学力定着を図る。
- ・OJT主任を中心にして、毎週金曜日の16:15からアップタイムを設定して、若手教員が指導を受けられるような時間を確保した。それによって、授業力の向上にもつながってきている。講師となる中堅教員にとってもOJTを意識し、自身の研修にもつながっている。

(2) 人間力の育成（重点目標）

① よりより「あいさつ」の実施

⇒・あいさつを活性化させるために、教師が率先してあいさつをし、その姿を見せるとともに、昨年度に引き続き、特活部を中心にして取り組んできた。たてわり班でのあいさつ運動を行ってきた。一定の成果はあがってきているものの、地域の方へのあいさ

つなどの課題が残っている。

② いじめや不登校等に組織的かつ迅速に対応する体制の整備

- ⇒・現在、不登校の児童は6名いる。まったく関わっていない児童はいなくて、担任が様々な方法で連絡をとり、関わりもっている。とても良く頑張ってくれている。関係諸機関との連携も含めて、今後も不登校が減っていくように指導をおこなっていく。
- ・毎週金曜日6hの「ほっとたいむ」を全教職員で取り組み、各クラスの情報を共有し、その後に、いじめ対策委員会を行い、いじめの未然防止と早期発見早期解決に向けた取組を組織的に行うことができた。今年度、SCに常に入ってもらい、一緒に考え、適切なアドバイスをもらっていて、多岐にわたる対策が練られている。
 - ・大小さまざまな案件があったが、重大いじめ案件はない。
 - ・SNS関係のトラブルがある。今年度もSNSについて考える日を月に1回設定し、メディアリテラシー教育や情報モラル教育を行うことで情報の正しい取り扱いができるようにする。
 - ・複数の児相案件を抱え、関係諸機関との連携を密にして、一つずつ対応をしている。

(3) 学校経営（重点目標）

① 学校経営計画実現のため、教職員一人一人が自分の役割と責任を自覚し、成果を上げる意識で職務に当たるようなシステムの整備をする。

- ⇒・今年度、企画会を効率的に運用し、学校経営運営のための根幹として機能することができた。どんな課題があがっても、企画会メンバーで対応策を協議し、みんな方向性を示すことができた。今後も風通しのよい学校経営ができるようにしていく。
- ・月に1回、企画会メンバーに学年主任を加えた拡大企画会を実施し、共有しながら学校経営に取り組めるように組織的に機能できるようになってきた。

② 学級経営力の向上を図る

- ⇒・学年会の充実を図り、お互いにフォローしあえるような関係づくりを目指した。学年いよっては意思疎通がうまくいかないこともあったが、拡大企画会等で共有してみんなで取り組めるようにすることで、改善が見られた。

(4) 特別支援教育の充実

① 校内委員会を中心にして、特別支援教育の推進を図る。

- ⇒・特別支援教室「みのり教室」の巡回指導教員と連携をとり、校内委員会にも出席し、情報を共有して、特別な支援を要する児童の対応に当たることができた。市の巡回相談の回数も増え、その状況も共有している。今年度から就学相談の申請方法や機関が変わっているので、確認を忘れずに対応していく。

(5) 家庭・地域との連携

① 学校運営協議会及びPTCAの活動と連携した学校運営を進める

- ⇒・毎月行われる学校運営協議会で情報を共有し、学校運営について協議し、地域の人々

と関わりを深めた教育活動を行や、PTCA の活動を支持し、家庭・地域と一体となって子どもたちの健全育成を推進する。

- ・学校便りやホームページを通じて学校の情報を発信した。特にホームページには行事の様子はもちろんのこと、日々の授業風景もこまめに更新するように心がけてきた。学校評価の中でも好意的な意見が寄せられている。

② 保幼・小・中の連携を強化する。

⇒・小中一貫教育の取組として、中野北小学校、甲ノ原中学校と3校で授業参観、教員交流を実施した。来年度は市の方針を受けて、内容を吟味して、計画的に実施できるようにしている。

- ・保幼連携では、8月に近隣の甲ノ原保育園・なかの幼稚園の教員同士の交流を実施することができた。その中での情報共有がとても有効であった。今年度は園児が小学校に来校し、1年生との交流を行う。今年度予定していた1学期の低学年授業参観が実施できなかったのもので、来年度は6月に実施できるように年間行事予定に組み込んでいる。

③ ブラスバンド部の活動の充実

⇒・今年度はブラスバンド部の活動も積極的に行うことができた。地域行事や八王子市のイベントにも参加し経験を積むことができた。